



銀の馬車道とは

銀の馬車道（正式名称 生野鉱山寮馬車道）は、飾磨津（現在の姫路港）と生野鉱山を結ぶ約49kmの馬車専用道路です。誕生間もない明治政府の官営事業として、お雇い外国人ジャン＝フランソワ・コワニエの指導のもと、義弟レオン・シスレーを技師長に迎え、マカダム式舗装等をはじめとする当時のヨーロッパ最新技術を用いて建設されました。

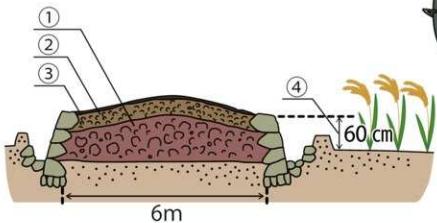
姫路市蛭塙にある馬車道修築碑には「石をたたみ砂を敷き、高低を平均し、川沢には橋を架し」と工事の過程が記されています。

この画期的な道路は、明治9年（1876）に完成しました。わずか3年間で完成した馬車道は、当時の姫路における近代化の象徴といえます。

銀の馬車道は、明延鉱山、神子畠選鉱場跡、中瀬鉱山へとつづく鉱山の道とともに、平成29年（2017）に日本遺産「播但貫く、銀の馬車道 鉱石の道～資源大國日本の記憶をたどる73kmの轍～」に認定されました。

マカダム式舗装

スコットランド人のジョン・ラウンドン・マカダム（1756～1835）が考案した道路舗装方法の一つ。敷き詰めた碎石を締固め、耐久性を高めています。仕上がりが美しく、馬の足がかりが良いという特徴があります。



現在に残る馬車道

明治28年（1895）に姫路から生野間に播但鉄道が開通すると運送の主体は徐々に鉄道へと移っていき、大正9年（1920）に馬車道は廃止されます。その後、馬車道は市道となり現在も市民の生活道路として利用されています。



銀の馬車道発掘調査現地説明会資料

姫路市埋蔵文化財センター 〒671-0246 姫路市四郷町坂元414番地1 TEL 079-252-3950
<http://www.city.himeji.lg.jp/maibun-center/>

銀の馬車道発掘調査 現地説明会資料

令和5（2023）年3月12日（日）13：30～

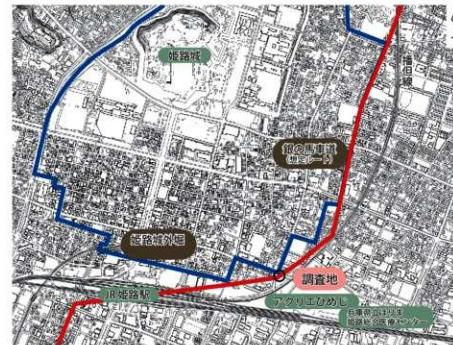


姫路市埋蔵文化財センター

調査の経緯と成果

JR姫路駅の東約800m、巽橋の交差点の南東角に位置しています。近年の調査・研究で判明した馬車道のルート上で、馬車道の実態を明らかにする目的で行いました。

その結果、当時のヨーロッパの最新技術であるマカダム式舗装により建設された銀の馬車道の路面をはじめて面的に確認することができました。



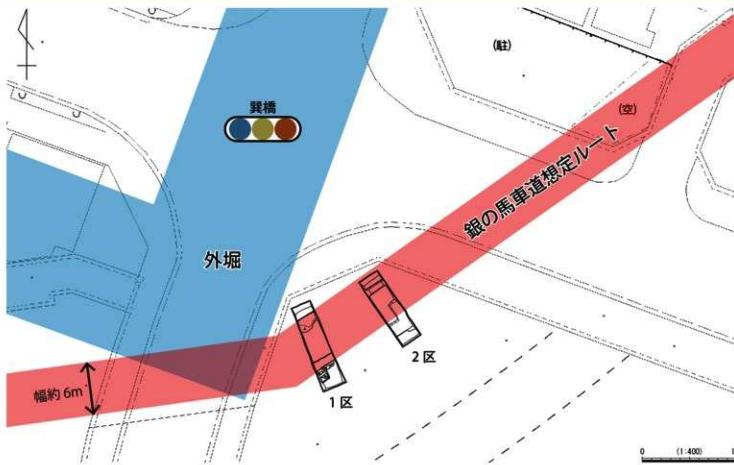
調査の概要

1区（西側幅2m×長さ9m）

記録によると本来の馬車道の道幅は約6mありますが、確認できたのはその一部で幅約80cm分です。確認できた路面は、路盤部、表層部、目づし砂利という「マカダム式舗装」の構造を良好に残っていました。

2区（東側幅2m×長さ8m）

調査区の北端の幅50cm分で1区と同様の道路構造（マカダム式舗装）を確認しました。そのほかの部分は後世の開発により破壊され、側溝など道路に伴う遺構は確認できませんでした。



側溝と路面（東から）



側溝と路面（南から）



路面詳細（左図の白線で囲んだ範囲：東から）